

實用兒童學講義

東京女子高等師範學校教授

中村 五六

二遺傳と適應

予は本誌第七卷第十二號に於て兒童の本質に就いての概説を試みて置いた。讀者は本篇を讀む前に一應前者を繰返して閲讀せられた後更に本篇を讀まれんことを希望する。

既に彼時も説明したる如く兒童は元來發達す可き素質を生れながらにして持つて居るものである。此生れながらにして具有せる發達の素質は生物學上名けて遺傳と云ふものである。即ち人類は發達す可き萌芽として諸種のものゝ遺傳せられて居るので之を夫れゝ發達せしめた處に人間の間たる理想は存するものと認めなければならぬ。今之に關する實際の事實を調べて見るに
佛蘭西のルイ十四世は非常な大食の人であつたが其兄弟及王の諸子は皆大食家で此傾向は永く子孫に遺傳したさうである。又チャレス十世の父は奇異偏癖な人であつたが此傾向はチャレス十世

に及びて一層強く幼児より非常に猛惡な本性を表はし種々の學校に入學したけれど何處の學校でも放校の處分に遇つて遂に兵籍に入つた處が飲酒の爲めに軍服を賣つた爲め死刑の宣告を受け僅かに醫士の方で其飢に堪えきれなかつたのだと云ふ證明を得て漸く免れたと云ふ話である。此外彼の飲酒が子孫に及ぼす害毒の如きは實に烈しいもので種々の實例が上げられて居る。又佛國のリエーポ一と云ふ學者の調べに因ると世界に於ける著名の科學者文學者哲學者と云ふものは皆其系圖中に著名の學者を有するものであると云ふて居る。又瑞西から出たジアツグス、ペルノイリと云ふ人は始めて學者として家名を上げた人であつたが其子孫には多數の學者が輩出して現に數人の學者が其子孫中にあると云ふことである。以上は著名の事實を上げたのであるが斯様な著名な人に就いて云はずとも平常吾等の見聞する所で見ても遺傳の事實のあることは明かな事である。親の顔形が子孫に傳はることや其氣質が似寄つて居ることは殆んど當然の様である。尤も時には親子著しく異なつて

居ることがないでもないが是等は寧ろ變則で普通の場合には子々孫々同様な氣質や形貌を遺傳して行くもので爪の蔓に茄子がならぬとか鳥の子は黒いとか云ふのが此邊の眞理を云ひ表はしたものである。尤も此遺傳と云ふものには親から子へと直接に遺傳することもあるし或は祖父若しくは夫以上の前代の遺傳が忽然として子や孫に表はれることもあつて其等の系路を調べることは中々容易でない。従つて何故に遺傳と云ふ様なことがあるか。其法則は何んなものであるかと云ふ様なことは今日に於ても明かでないのである。併も其原因や法則は明かでないとしても遺傳と云ふ事實のあるとは確かなことであるから子供を取扱ふ人は大に此點に注意して各兒の遺傳の特性を知ることと努めて之に因つて教育の方針を求めると云ふことは大切なことである。

斯くの如く人は遺傳と云ふものに因つて其發達を根本的に限定せられて居るものであるから此意味で云ふと子供と云ふものは後來如何なるものに發達し如何なる技能に秀づるかと云ふことは既に生

初の際に一定されたものと認めて差支ない様に思へる。イヤ或一部の人々には實際斯様に考へられて居る様である。そして甚だしいのは小供は三年立てば三つになる。放任して置いても相當には發達する。何も教育々と骨折し騷いだ處で生來の馬鹿を伶俐にする譯には行くまいと頗る樂天的に考へて居る人が尠くない。是は大なる誤りである。元來發達と云ふことは兒童本來の性質ではあるが然りとて其發達は材料を要し機會を要するもので決して空に譯もなく發達し來るものではない。身體の發達に食物を要し其成熟には一定の時期を要する如くに心性の發達に於ても一定の材料と一定の時期とを要するものである。小供は教へ可き物を教へ鍛へ可き時に鍛へなければ決して完全な發達はしないものである。子供は發達す可き萌芽を以て持つて居るとは云へ其萌芽は植物の夫の様に形の上に完全に出來上つて居るものを遺傳して居るのではなく唯適當な材料と適當な時期とに應じて發達す可き傾向即ち素質が遺傳せられて居るのである。故に其遺傳せられた素質を發達せしむ

るか否かと云ふ問題は生後の境遇如何に因つて決せらる可きもので之が生れた當時から未來迄ちやんと確定して居るものではないのである。従つて子供將來を憶測して妄りに其發達を云々するのは早計であると云はねばならぬ。中にはどんな素質がかくれて居て何時何な機會に因つて表れて來ないとも限らぬ。又是と同理で子供は假令或面白からぬ傾向の遺傳を以て居つたとしても教育者の注意に因つて被教育者をして其傾向の發展を促す様な材料と機會とから遠けることに成功するならば必ず之を壓迫することが出来るに相違ない。勿論多くは斯る場合に於て其惡傾向の發達を促す機會に絶体に遠からしむることは不可能に違ひないが少くも其機會を少くし其發達を制限することが出来るのである。遺傳は元來教育の効力を制限するものであるが此點に於ては確かに教育の力に因つて遺傳を支配することが出来る云はねばならぬ教育の可能である理由も此邊に存するもので教育者は遺傳の恐るべく重んずべきことを認めると共に之に對して徒に落擔せず失望せず自己の教育力

の決して輕視す可からざることを思はなければならぬ。併し或人は云ふかも知れん。「成程教育は必要であらう。そして遺傳を制限する力もあるであらう。併し何れにしても遺傳の範圍内での仕事で此範圍を超過して偉なる發達を遂げる譯には行かぬ様だ。即ち今茲に百の價値ある發達を來す可き遺傳があるとして教育の力に因つて之を百以上の價値あるものに發達せしむることは不可能にあらざるか」と

是は一應尤なる質問であるが幸にも生物には外圍の狀況に適應して必要なる變化を生ずる一種の性質がある。是は進化論上生物の適應性と名くる所のもので此説に因ると、人間は遺傳に因つて大體に於ける固定を受けて居る様なものの方には其境遇に應じて適當な變化を生ずるが故に其境遇次第に因り遺傳を超過して偉なる發達と爲すものが随分あるのである。勿論其超越的發達は基礎たる遺傳に對して突飛な隔りを持つ可きものでないのが當然である。性來の馬鹿は如何に教育しても大學者になる譯には行かぬに違ない。併し底能兒

として教育の効力がある以上は同様に普通の腦力あるものが出来ることは見易き道理ではあるまいか。之を人間以外の生物界に尋ねて見るに吾々が毎日の食膳に上される彼比良目と云ふ魚は幼時には体の兩側面に各一個宛の目を持つて居るのに漸次生長するに連れて暗臍色の一方に寄り來つて終には白色なる一面には全く目のない様になるそうだ。又北海道や東北地方に澤山産する「はや」と云ふ動物

は一見泥土の固まりと外見えないものであるが之が岩石に固着しない前は目もあり口もある。蛸斗で盛んに泳ぎ廻はつたものだそうだ。前者は必要なる爲めに機官は之に應じて移動し後者は不必要なる爲めに機能の退化を示したものと云はねばならぬ。此他盲人の觸角が異状な發達をしたり、米國のサンダーと云ふ人は鐵啞鈴で練習して大力士になつたりしたのを見ると、何うしても動物殊に人間には能く外界の事情に適應して異状な發達をする所の性能があると見なければならぬ。既に斯る性能があれば教育は此性能を利用して以て其人を教

育し時には其遺傳の幾分を超越して發達せしむることは決して不可能の事ではあるまいと思ふ。要するに子供と云ふものは遺傳と云ふ先天的の素質を培養し之を完全に發達せしむることが出来ると共に必要に應じて之に多少の變形を來たさしむることが出来るものである。

▲曆の改良新案 現今世界に於て最も廣く行はるゝ太陽曆の改良に就き從來種々の方法を案出したるものあれども今日まで一も行はれたるものなきが今、英國のワイリツプ、ワイレツト氏が案出したる方法は頗る便利なるもの、如く思はる即ち其方法は毎年元日を週日中より除き單に之を何年の元日と稱するなり又閏年の一日は之を閏日と稱して元日の次に加ふるなり此の如くなるときは毎年三月六十四日にして一月の一日は日曜に始まりて年末は土曜日と終るとなるなり尙又月に因りて日數を異にするは煩はしきとなれば一月及び二月は三十日、三月は三十一日、四月は三十日、五月及び六月は卅一日、七月及び八月は三十日、九月は卅一日、十月及び十一月は三十日、十二月は卅一日と定むるに在り此方法は宗教上殊に便利なる由なれども容易に行はるべしとは信じ難し